

成年後見人選任で家族が直面した課題チェックリスト（2025 年版）

成年後見制度は、判断能力が低下した方を法律的に支援するための仕組みです。しかし、実際の後見人選任手続きでは、家族の間での意見対立や費用・手続きの煩雑さ、家庭裁判所との調整など多くの課題が生じます。このチェックリストは、後見人選任申立てを検討するご家族が直面しやすい問題点と、その対応方法を整理した実務的な確認資料です。

STEP1：後見申立て前の準備・確認

- ☐ 本人の判断能力の状況を確認し、医師の診断書を取得した
- ☐ 後見制度以外の方法（家族信託・任意代理契約）を比較検討した
- ☐ 家族間で後見人候補者を話し合った
- ☐ 財産の内容（預貯金・不動産・年金収入など）を整理した
- ☐ 家庭裁判所に提出する申立書類の書式を入手した

STEP2：後見申立て手続き

- ☐ 管轄する家庭裁判所を確認した
- ☐ 申立書・添付書類（診断書・財産目録など）を作成した
- ☐ 申立費用（印紙・郵券・鑑定費用）を準備した
- ☐ 家庭裁判所に申立書を提出した（郵送・持参）
- ☐ 家庭裁判所からの照会・面談通知を確認した

STEP3：選任後の対応・管理

- ☐ 裁判所の審判書を受け取り、後見人選任の内容を確認した
- ☐ 後見開始後、財産目録を提出した
- ☐ 後見人としての報告義務（定期報告・支出明細）を理解した
- ☐ 後見費用や専門職後見人報酬の支払い方法を確認した
- ☐ 家族間で後見人の負担・分担について話し合った

STEP4：トラブル・課題への対応

- ☐ 家族間での後見人候補を巡る意見の相違を調整した
- ☐ 裁判所の指定により、専門職後見人が選任された場合の対応を確認した
- ☐ 後見人の職務に不満がある場合、家庭裁判所に変更・監督申立てを検討した
- ☐ 本人の生活支援や介護サービスの利用方針を整理した
- ☐ 将来的に後見制度を終了・切り替える場合の流れを確認した

注意点・補足

- ・成年後見制度の申立てには、医師の診断書が必須です。

- ・ 本人の意思を尊重する姿勢が最も重要であり、家族の都合だけでの申立ては避けましょう。
- ・ 後見人に家族が選任されない場合（専門職後見人選任）もあります。
- ・ 家族信託や任意後見との併用も有効な場合があります、早めの相談が望めます。

参考 URL ・ 専門家相談案内

 清和行政書士事務所 | 成年後見・家族支援専用窓口

LINE 登録で『成年後見申立書テンプレート』資料も無料配布中。

参考：裁判所 成年後見制度

https://www.courts.go.jp/saiban/syurui/syurui_kazoku/koken/index.html